

### 並存するPDAと携帯電話 充実の業務ソリューションが一堂に

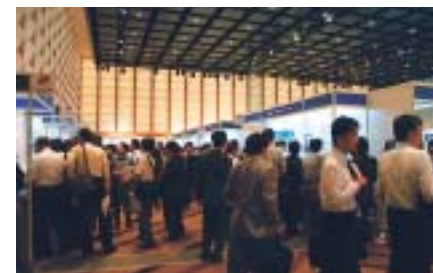
「PDA・モバイルソリューションフェア2004」が開催された。日本最大のPDA専門展示会である同展。今年は携帯電話も加わり、さらに充実した。

8月31日、東京国際フォーラムにて、MCPC(モバイルコンピューティング推進コンソーシアム)主催のイベント「PDA・モバイルソリューションフェア2004」が開催された。3回目を迎えた今年からは、新たに「モバイル」の一語がイベント名に加わり、PDAの専門展示会から、携帯電話をもカバーした総合モバイルソリューション展へと進化した。

昨年を約200人上回る4706人の来場者で大盛況となった展示会と、同時開催された「中堅・中小企業モバイル活用セミナー」「Bluetooth技術セミナー」の様相をレポートする

#### 2003 SE搭載モデルに注目

展示会場の主役となったのは、もちろんWindows Mobile for Pocket PC。マイクロソフトの携帯情報端末用OSは、この7月にVGAや横長表示に対応した「Pocket PC 2003 SE」へ



4706人が来場し、会場は大盛況

バージョンアップしたばかりだが、3社がSE搭載Pocket PCを出品し、注目を集めた。

まずは、すでに販売を開始しているデルの「Axim X30」と富士通の「Pocket LOOX v70」だ。ともに無線LANとBluetooth対応モデルを用意。現時点ではPocket PC最高峰といえよう。

もう1社は東芝。10月に発売を予定している4.0インチ半透過型VGA液晶搭載の「GENIO e」を参考出品した。無線LANとBluetoothを搭載したモデルも発売予定という。

会場での人気度という点では、台湾からの新顔、マイタックジャパンのGPS搭載Pocket PC「Mio168」が注目されていた。ブースでは、GPSを利用した位置情報ソリューションのデモを展開。来場者の関心を誘っていた。

このほかPocket PC関連では、日



デルは2003 SE搭載の「Axim X30」を展示

本ビューレット・パカードが、2カードスロット搭載機としては世界最小の「iPAQ Pocket PC h2200」シリーズなどをアピールした。

Windows CE .NETを搭載したハンディターミナルの出展もあった。カシオ計算機は超小型レーザーキャナーとCMOSカメラ搭載の「DT-5100」、NECインフロンティアはポケットサイズのPOSレジ端末「StoreBase@POCKET」を展示していた。

周辺機器では、シーエフ・カンパニーのブースでユニークなものを見つけた。「バーチャルキーボード」だ。これはレーザー照射により投影されたキーボードの映像をタッチすると、センサーがキー入力を検出し、文字入力できるというもの。まるでSF映画のようだが、10月から販売開始予定。価格は3万円程度とのことだ。

本放送開始を10月中旬に控えたモバイル放送の出展もあった。期待の新サービスを体験しようという人々で、ブースは大いに賑わっていた。

興味深い業務ソリューションも多く紹介されていた。構造計画研究所は、PDAを使った「モバイル点検システム」を展示。各種工事や点検業務を効率化できる。

PDAの棚卸端末化を実現する



GPSを搭載したマイタックジャパンの「Mio168」



構造計画研究所の「モバイル点検システム」

「Simply-Stock」を展示していたのはアイ・ビートだ。PDA1台から導入できるという。また、NECブースで紹介されていたスマートインターネットソリューションズの「ハンマーヘッドASP」は、Excelファイルなどをベースに、簡単にWebデータベースを構築できるASPサービス。月額3万円から利用できる。

他にも、アイエニウェア・ソリューションズのモバイル向けデータベース「SQL Anywhere Studio」、ソフトブレーンの営業支援ソリューション「eセールスマネージャー」などが来場者の注目を浴びていた。

#### キャリア4社が揃い踏み

移動体通信キャリアは、NTTドコモ、KDDI、ボーダフォン、DDIポケットの4社が顔を揃えた。

ドコモブースで注目を集めたのは、アドバンスト・メディア提供の音声認識ソリューション「AmiVoice Reporter」だ。携帯電話などから音声認識サーバーに電話をかけると、業務報告内容がそのままテキストデータ化される。PC版はすでに病院などを中心に600社以上に導入済み



W-CDMA対応データ通信カードを使ったソリューションを展示していたボーダフォン



ドコモブースで紹介された音声認識ソリューション「AmiVoice Reporter」

とのことだ。携帯電話に対応したことにより、今後は外回りの営業マンなどの業務報告などにも活用してもらいたい考えだ。

KDDIは、携帯電話からグループウェアにリモートアクセスできるASP「ケータイオフィス」のデモや、Bluetooth機器の展示を行った。

ボーダフォンのブースでは、W-CDMA対応のCF型データ通信カード「V701SI」を展示。シトリックス・システムズ・ジャパンのリモートアクセスソフトを用い、PDAから社内サーバーの資源を活用するデモを披露していた。

DDIポケットはイベント前日に発表したばかりのセイコーインスツルメンツ製CF型PHSデータ通信カード「CH-S203/TD」を参考出品。同カードを使って、位置情報ソリューションを紹介していた。

#### PDAの今後を激論

併催された「中堅・中小企業モバイル活用セミナー」は、マイクロソフトモバイル&エンベデッドデバイス本部の千住和宏部長の講演で幕を開けた。同氏はPDAの次の波として



PDAの将来を語るマイクロソフトの千住和宏氏



KDDIはリモートアクセスASP「ケータイオフィス」を出展

「シームレスコンピューティング」というキーワードを提示。「ソフトウェアの相互接続性がPDA発展の鍵となる」と語った。

同セミナーのハイライトとなったのは、マイクロソフト、富士通、NTTドコモ、京セラコミュニケーションシステム(KCCS)、クレオの5社が参加したシンポジウム「本音で討論:PDA、ケータイの強みをどう生かす!」だ。「PDAの課題は、通信や入出力といった基本機能が未成熟なこと。これら課題を克服し、コミュニケーションツールとして進化しない限り、PDAに未来はない」。KCCSの黒瀬氏の刺激的な提言で始まったシンポジウムは、終始活発な議論を展開。どうすればPDAは発展するのか、有意義な意見が数多く出された。また、NTTドコモの杉山氏はシンポジウムの中で、フルブラウザ搭載のFOMA端末を開発中であることを明らかにした。

毎年、事前受付の開始とほぼ同時に定員が埋まる「Bluetooth技術セミナー」も例年どおり大盛況。東芝の酒井五雄氏らが、Bluetoothの最新技術を解説した。



活発な議論が交わされたシンポジウム